慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	蘇州杭州論
Sub Title	
Author	加藤, 勝三郎
Publisher	三田学会
Publication year	1909
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.1, No.2 (1909. 3) ,p.264(130)- 271(139)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19090301-0130

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

以上は主として堀江教授研究會の講義に據り起草したるものなり。

蘇州杭州論

加藤勝三郎

抑も清國は我と相隔ること實に一葦帶水にして未だ船舶の不完全なりし時代に於ても尙は交通頻繁に貿易相當に行はれたるものにして交通の發達進歩せる今日に於ては其貿易の盛況を呈せる又昔日の比に非ざるなり而して彼の境域は廣大に住民は夥多に富庫は未だ開發せられざるもの多くして新事業興起の餘地充分に存せり諸外國人は之に乘じ虎視耽々利益壟斷に吸々たる既に久しく利權は着々として其獨占に歸し事業は本國より低利の資本を醵集するによりて有利に經營せられつゝあり然るに我國人は如何其位置最も接近し各方面に至大の便利關係を有せるにも拘らず未だ見るに足るべき事業なく大商人は指を屈して數ふるに過ぎず工業會社亦曉の星の如し然れ共吾人は敢て之を悲觀するを要せず寧ろ吾人發展の急なるを示すものなりとせん、余が殊に我國に最も近くして且互に接し略ぼ其盛況を同じくせる蘇州杭州の二者を選びしもの亦一理なしとせず。

第一、商業地として

（總論）　蘇州は馬關條約に依りて開かれたる三港の一にして人口は現に約五十萬を有し商業を營める者は其の十分の三を占め閶門內には巨商富豪軒を連ね疋頭、洋貨、皮貨、玉器、扇商、綢緞等の問屋小賣店より銀行、兩替屋等皆な繁盛を示しつゝ相並列せるあり同門外亦船舶常に輻輳し帆檣林立商戰の囂然たるものあり然るに杭州は左迄の盛觀を認めず且地は上海に近く其商業發達に困難なるものゝ如し故を以てか吾人の發展地としては杭州は蘇州に劣る幾層なるやを知らずと云ふ者多し是れ全く目前皮想の觀察に出づるものにして商業萬年の立脚點に視力の達せざるの嘲を免かれざるものと云ふべし。卽ち蘇州と雖も上海に密接せるや明にして鎭江亦近く殊に同港に於ける商品は殆

ど貿易中樞の理により上海より仰げること自然の勢にして且其販路は附近四鄕八鎭無錫常州地方に過ぎず區域狹隘到底宏大なる經營を施すに足るものにあらず。之に反し杭州に於ては現下未だ充分の發達を表はさゞるも（否な表はさゞるが故に發展の餘地充分なりとも云ふべく）今や錢塘江々岸江干より大運河に臨む拱宸橋に至る鐵道の完成近く寧波に出づべく嚴州に街州に延ひては延平、福州にも通ずべき鐵道亦成るべく、又以て浙江省內各府縣安徽江西、福建三省の門口に位し商區更に廣しと云ふべし我商人が此處に根據を据へ進々として內地に販路の擴張を求めんには利多かるべく又商業家として原料を此地に買收し本國に致さんとせんには繭、棉、菜餅、棉花等其材源到る處に充實せるを見るべく尙は錢康江上流に經營せんとする者且は更に利源を探求せんとする者何れも其活動の餘地の存すを見るべし。又上海に接せるが爲め商業發展難し云々の如きは毫も意となすに足らざるなり蓋し上海杭州兩地に於ける清人風習性質に似て非なる所にして信用及び嗜好の程度に於ても輸入業者の商品取扱に大に酖酌を要するものあると同時に彼の上海に於て間接的杭州貿易を營むのは迂遠遲鈍の感あるべきは勿論なればなり。評者或は曰はん然らば何が故に蘇州は隆盛を呈して止まず進むの狀あるやと其は到底一言の能く答へ盡し得るところ非ずして又絕對的答案を揭ぐること難けれ共要は富豪家巨商の多きが爲め金融常に圓滑にして四時共に市場の好況を來せるが故なりと言べし然共斯種富豪家に依る繁昌地は將來永遠の發展を望む者の欲せざるところにして又實に所謂商業萬年の立脚を据べきにあらざるなり。

（各論）　以上は單に概括的比較論に過ぎず進んで其詳細を案ずるに現今蘇州にに於ける商品は上海の輸入に持つものなるが彼の先年米國への清酒輸入に其著しき實例を示して彼是の評ある日本商人（一部？）の春商業道德的行爲の種子は此地には早くより植られたるもの〻如く其結果英米獨等の商品多額にして日本品は寧ろ之に次ぎ且其主たる物

品と雖も尚ほ排斥漸く增し商勢頓に振はざるものあるが故に從來の關係者は宜しくそれが挽回策を講ずべきなりとなすも苟くも新に發展して縱橫の活動を試みんとする者は斯の如き沿革的障碍少く且つ充分の餘地ある杭州に進むに加かざるなり。

今兩地の各種商業に就て見るに輸入品中

(イ)摺付木は蘇州に於ては日本品は獨占の地位にありと云ふものなるが其れにして自三十七年至三十九年三ヶ年の高は四九・〇一三グロスより七五・五七二グロスに增加せるに杭州に於ては三六一・四五六グロスより五五七・四五〇グロスに增加せり。

(ロ)蝙蝠傘にありては同三年間に蘇州は二三・五二打より一〇・三三八打を輸入し杭州は僅か二・九八一打より三・〇五三打を輸入せり之に由るときは本品は杭州に於ては見込み薄きものゝ如くなれ共此は全く需要の少きにあらず一は彼地の輸入は重に小賣を主とする十軒內外の商店に存じて輸入商としては殆どなき狀態なると一は地方傳播の商人は杭州紹興人の僅かの者の手にあるとに因るものにして此等の供給機關にして更に發展の餘地を充たしたらんには輸入も亦蘇州に劣らざるや疑はざるところなり。

(ハ)石鹼は蘇州に於ては日本品は從來賣行き好く輸入も從て日本品の獨り占むるところなりしが惜む可し我製品は一時的外觀の美麗を存ずるのみにして其質甚だ不良なるものなるを以て自然其勢力落ちて今や外國商人多く彼地の者と特約を結び米國製の廉價の物を輸入するありて勝を競爭場裏に占むるは困難なるに至れり翻て杭州にては之に敵すべき程度に達せざるも決して見込なしと云ふべからず況んや蘇州に於けるが如き沿革的障害なきに至つては寧ろ注目の價を存ずるものと言ふべきか。

(ニ)砂糖は其統計に由れば兩地共に輸入減少の傾向を見ると雖も而も尚ほ蘇州は一年一六・二三一擔より二四・一三四擔の間の需要を有し杭州は一九九・八一二擔より二二五・五八四の間にありて遙に蘇州に優れり。

(ホ)紙卷煙草の輸入高は蘇州は六三・一五〇箱より三二一・五〇〇箱の間にあるに引換へ杭州は五〇・〇〇〇箱乃至一七四二・八〇〇箱の多きにあり。

(ヘ)海產物類は蘇州は寧ろ杭州に依るの現狀なれば此種商業の望みは後者に在りとするを以て當然なりとす、殊に此地には海產專業問屋なく唯他との兼業者の手に營まるものなれば尚ほ日本品直輸入にして販路の擴張、品質、値段、彼等の嗜好等に鑑み其當を得たらんには一層妙なるものあるべし。

(ト)織物類は蘇州杭州共に清國屈指の機業地なるが爲め今後の輸入販路に至りては大なる競爭を經ざるべからざるが故に其覺悟なくしては共に見込なきものなり。(尚ほ工業の項にて論ずるところあるべし)。次に輸出品に付ては兩地共に吾人本論の前提に因りて此處に殊更論ずべき程のものなきを以て之を略す。

(結論)　是を要するに商業地として吾人永遠の活躍を期すべきは杭州にありとす殊に現下同地方には諸外國人の入り込み居ると無きが爲め日本人の商業を成功せしむるには最好の機會にして余輩は此地突進者に双手の贊成を與ふ者なり。然共輕卒魯奔は大國民の採らざるところにして商業永遠の策に非ず故に此處に注意すべきは對清商業從事の方針なりとす卽ち從來我商品輸入は多く大阪神戸等に在住せる清國商の出張店又は其關係者の直輸に依るものにして我商人は清商に一步を輸するものと云ふべく又支那內地にて日本商品の需要多きに拘らず我國人が商人として支那內地に發展せざる原因と云ふべきものなれば對清貿易は單に物の供給のみを以て能事終れるにあらず苟くも彼地に商業的發展を望む者は內に在りては商品の實質價格の低廉等の點に注意を拂ふべきは勿論外にありては自ら充分の信用と實力とを以て彼の內地に入りて商業を營み物品取引の方法に革命を齎し勇邁以て其が直輸の策を講ず可き事なり次には日淸人合同經營の事にして之に關しては經世家の考慮するところなるが從來合同若くは日本商人にして淸商の使用人たるの成績を見れば多くは所謂一攫千

金滿手粟的僥倖を一時に得んとする輩にして之が爲め日本商人の信用を失墜し今日合同事業より延びては日本商業全般の發展に害を及ぼしつゝあるもの少からざるなりされば日清貿易の將來を思慮するものにして合同經營を欲せざる者は我信用を清人に博するの途を講ずべきは勿論合同を計らんと欲する者にありては殊に其合同の利益を彼等に悟らしむるに勉むと同時に彼等をして我に信賴するの念を惹起するに努めんか日清貿易は更に有利にして活動に益すること大なるや疑はざるところなり。

第二、工業地として

今工業の方面に至りては所謂合同經營は更に利にして有望なるものなりと信ず元來清國人の經營せるものにては工場の整理を缺き從つて業務の進歩を害するの弊あり、さりとて外國人にして彼地に經營を企つ者は事業費の嵩まる弊あり此點に於て日本人は最も便宜の位地にある者なることは世人の熟知せる所なる可し然らば所謂日清合同經營に

至りては更に利益の存ずるや論を俟たざるなり。抑も蘇州杭州は共に清國中第一に位する工業の特色を有するものなるが、蘇州は重に紗緞を產して他は言ふべきものなし就中緞は每年四五萬圓の產出額を占め機臺數は城內城外を通じ約二千七八百臺ありて最も有名にして彼地獨特のものなるも近來漸々廢業者ありて其勢往時の觀なきは三十七年頃迄三千餘臺の機臺を有せしものが今二千餘となり其間一千餘臺の減少を示せるを以て知るべし。紗は之に次ぎ其種類頗る多きものなるが杭州に於ても之を產し兩地伯仲の間に在り翻て杭州の工業を見るに絹織物最も盛にして緞、綸綢、宮綢大綢、紡紗維は其主なる物にして殊に綸綢の產出は清國第一と稱せらる織機は杭州城內に約一萬臺織工二萬餘を有し其勢進々たり又蘇州の比に在らず評者或は曰はん蘇州の此種工業の程度にして往時の隆盛は去りて杭州に及ばずとするは尙ほ吾人が彼地に於て其活動の餘地あるを表白するものなりと、然共それは全く机上の空論とも稱すべし卽ち

先づ原料につきて見よ、蘇州は之を其自ら產するところより全く得ること能はざるには非ざれ共其品劣等なる爲め常に浙江省各地より得るものにして製品販路は杭州を隔てゝ廣東、福建、江寧に在りて輸出は一旦上海を經て需要地に分配せらるに非ずや然らば杭洲品が其原料を其地及び同省內に於て盛に出づるものを容易に取るを得、製品販路に至りては東は江蘇福建より西は四川南は廣東北は北京滿洲より清國各處中流以上の普く需要する有るに比して何人か所謂餘地の蘇州に存せりとせん況んや清國宮庭が其大臣を派して御用品の製造監督を爲さしめあるが如き特點を有する杭州に能く匹敵し得るもの在らざるや論なきに於てをや次に其隨伴たる染色業よりさては綿絲紡績業の如きは如何と云ふに蘇州には蘇綸沙廠蘇經絲廠吳興絲廠延昌永終廠等以前には盛なるもの在りしも五年前頃より原料缺乏の爲め其勢頓に衰へ中には休業停業の姿に在る者さへ有るに至れるに反し杭州にては通益沙廠の如き規模左まで大なりと云ふには非ざるも業は著々として進めり、其他製紙にありては兩地共に其消費高は日本紙(過半を占む)西洋紙等總へて每年約二萬千兩餘に昇り而も水質良好にして原料亦豐富加ふるに製紙場の設け無く罐詰にありては清國人には需要少きも川魚スッポン類雞鴨猪等多きが故に輸出を見込みて業を試る可く石鹼にありても原料の豐富に需要の增加を以てせる此地方には其業の必要言ふ迄もなく是等諸工業の兩地に有望なること見るべきなり。

要するに吾人の立場より之を言へば蘇州は織物業を以て天下に名を爲し古くより帝室織物場の設置あり特に織造大臣を派駐するありしも其は過古の一夢とも云ふべく今は昔の香を留む破礎の散在せるのみ。而し諸種の工業に看過すべからざる勞働賃銀の如きは一日二十仙乃至五十仙の平均に在るに引換へ杭州の側にありては一日十五仙乃至三十五仙を以て足り生活費の如き兩地を比較するに、

主要品物價表(三九年外務省調査參照)

白米　炭(仙)薪(仙)豚(仙)鷄卵醬油

蘇州　洋五元(一石)　七〇　四　一五　十文　七仙
杭州　十　仙(一升)　五八　二四　一五　八文　五仙

結局後者卽ち杭州は頗る低廉に且土民の手工に巧みにして彼の絹絲原料を自地に取り得る等の諸方面より更に前者は後者に及ばざるもの〻如し。

第三、農漁業地として

蘇州地方到る處平原にして地味肥沃米蘇苧を產し清國に於ける一大寶庫なり就中米は其質の良好なる天下に冠たるの稱あり見るべし此地方の收穫は我に數倍し而も土地豐かにして每年の糧收貢米高は實に非常なるものなるを卽ち政府の調査に從へば去る三十七年にても糧收は現に一百二十二萬三千九百七十三石四斗二升二合五勺の多きを有し糧道より上納せる貢米は白米七萬二千六百七十七石七斗三升及び經剝食耗商船耗等卽ち運送中の經費桝耗り食料並に船コボシ等の米九千三百三十九石七斗七升七合一勺合計白米八萬一千三百四十六石五斗七合一勺にして〝漕粮正耗米卽ち玄米五二七九九三二七升及び經剝食耗商船耗等米五六一二二三六二合合計五八四三一五六三二合總計六十六萬五千六百六十二石一斗三升九合一勺と算せらるゝ所にして彼の我國へ輸出する所の麻製品の原料たる各種麻苧蘇亦盛に播殖せり次に杭州地方はと見るに是れ亦氣候土壤の適切にして農產物の豐富なる事實あれ共仙霞嶺夥嶺の山脈の支脈屈起すると其他地價地租土地賣買慣習、小作人關係等の點とよりして農業經營地としては蘇州に亞ぐものと云ふべく、漁業にありては蘇州地方は太湖を主點として湖澤河川多く所謂網船の組織ありて至る處漁業頗る盛に鯉魚、鮒魚、鯉魚、鱠魚、白魚、銀魚、鯖魚、及び蟹蝦の川魚の多量を產し一船の收益が一ヶ年約二千弗以上に上ると云ふを以て其如何に有望なるかを知るに難からざるべし、然るに杭州にては河川沼澤の漁業語るに足るもの無く唯當地の特色たる生魚に至りても亦實に些細なるものなれば斯業亦蘇州の優れるを知らん。

第四、結　論

論と來れるところに由れば吾人將來の發展地として商業工業は杭州の勝るところ多く農業漁業に至りては蘇州に望むの外なきを見たり、然共農業の如きは蘇州の地方如何に大なりと雖も北米南米に優るなく漁業如何に有望なりとする北海、沿海の諸地に試むに加かず唯之を彼地に營むは一家の富をなすを得るに止まり吾人一般の事業としては言るに足らざるや明ならん、又彼地に事を成さんとする者の先づ注意すべきは產業の自然的條件たる氣候の如何なり、氣候は兩地共に宜しく我國人には最も適當せるものなれ共强て其優劣を比較せんには蘇州地方が冬季三四十度、秋季五六十度、夏季九十度の平均なるに比し杭州の冬季四十二度秋季六十三度夏季八十一度の平均を示すが故に後者を以て優れりとなさん況んや避暑の必要に應ずべく樹木鬱蒼の間清流滾々山光明眉たる鐵塘江上流の近き樂土たるに於てをや玆に於てか余は吾人將來の發展地は蘇州に非ずして杭州に在りとなすものなり志ある者資を有する者宜しく商工の方面に於て彼地に突進し新舞臺に大活躍を演ずべきなり、彼の一般の慮る上海接近云々は意となすに必要なきのみならず上海に近き爲めに却而向後の經營に對し利便を與ふるもの多かる可し。

(因記す……以上引用したる數字的計算は主として明治三十九年九月外務省調査に由れるものとす)